

## 次第1：開会

甲賀市市民憲章唱和

## 次第2：委嘱状の交付

市長より委嘱状の送付

## 次第3：市長挨拶

## 次第4：自己紹介

## 次第5：委員長、副委員長の選出

委員長に和歌山大学の木川委員、副委員長に一般社団法人甲賀市観光まちづくり協会の小山委員、同じく副委員長に信楽町観光協会の藤原委員を選出。

## 次第6：諮問

## 次第7：議事

### (1) 会議の公開について

事務局： 甲賀市観光振興計画審議会については、甲賀市附属機関設置条例第2条に規定された執行機関である甲賀市の附属機関であり、甲賀市附属機関の会議の公開等に関する指針第3条に基づき原則公開することを下記の通り説明。

- ・会議は傍聴者の入場を認める
- ・傍聴者は会議当日の先着順により受付し、定員は5名とする
- ・会議開催の告知及び会議結果の公表については、甲賀市のホームページに掲載する
- ・会議結果の公表については発言された委員名も公開の対象とする

○質問・意義なしのため、原則公開として決定

### (2) 第2次甲賀市観光振興計画の進捗について

事務局： 第2次甲賀市観光振興計画の概要、進捗状況について説明。

委員長： 進捗状況について、「基本目標の観光入込客数」の数字を見ると、令和2年の観光入込客数の速報値が落ち込んでいるとはいえど、踏みとどまっているように感じます。

「進捗評価指標（観光ガイド登録者数）」について、減少の主な要因は高齢化ですか、それとも更新がないということですか。

事務局： ボランティアガイドとしての組織で、新たにガイドをやりたいという方が少ないと聞いています。また、高齢化で退会される方や亡くられる方がいることも要因と思われます。

委員長： 「スカーレット」の年も前年と比較して少し減っているということは、ドラマに合わせてボランティア希望の方が増加することもあまりなかったということですか。

事務局： 改めてボランティアガイドの組織に入って活動するという形はあまり聞いていませんが、「スカーレット」に関しては、地元として観光物産販売所や休憩所を設置し、ガイドとしての登録はないが、地域で地元の話をさせていただいていました。

芳田委員： 前回計画を立てたときの状況について、数値を見ると、「スカーレット」や新型コロナウイルスの影響が見られますが、第2次観光振興計画を立てたときには「スカーレット」のことは分かっていたか。

事務局： 分かっていませんでした。

芳田委員： 今後、延期されている植樹祭の実施等がありますが、観光誘致を計画的にアプローチすることで目指せるものはありますか。

委員長： 違う地域の事例ですが、大河ドラマを呼びたい自治体はたくさんありますが、私の知る限り誘致でうまくいったことはあまり聞かないです。

田嶋委員： 甲賀市版 DMO について、私は初めて聞きましたが、この目的や設立が困難だった経緯を教えてください。

事務局： 観光振興を考えるにあたり、様々なことを戦略的にしていくために、それぞれの組織のマーケティングのデータ等を活用していく組織が必要ではないか、という流れが第2次観光振興計画を立てたときに日本中にありました。その流れの中で、計画の中に位置づけられましたが、実際に甲賀市の中でどうしていくかという議論をしたときに、今の段階で DMO を作るのは難しいという結論になったと思っております。

委員長： 補足すると、前回第2次観光振興計画を立てたときには、「日本版 DMO」という言葉が先に走る状況で、「稼ぐ観光」ということが非常に重要視されていきました。当時、インバウンドがどんどん増えてくるのではないかという状況の中、既存の観光協会を中心とした観光のやり方では厳しいのではないかということで、DMO という言葉がでてきました。しかし、具体的に明確な形があるわけではなく、地域によっていろいろな形があります。例えば、株式会社で DMO を運営しているところもあれば、観光協会が DMO という名前に変えているところもあります。

その時の考え方というのは、おそらく「観光」というものが「観光業」に関わる人だけのものではなく、例えば農協や観光協会には今まで入らなかったけれど観光に関わっている人達が連携をしようとしていました。それが「日本版 DMO」です。前回の時のこの議論というのは、既存の観光協会を統合するというわけではないです。

第2次観光振興計画を立てた後、コンサルティング会社の方が甲賀市を周って、その後でてきた報告書が「DMO の設立は時期尚早である」という答えであったので、今は検討事項という形に戻っています。

清水委員： 前回のときに DMO をなんとか立ち上げていこうという結論だったと思いますが、その後情報がないので気になっていました。私は各事業所や立場の方が定期的に集ま

って話し合いや協議をする、これが甲賀市版 DMO で良いのではないかと考えています。今後、こういう話し合いをしていく方が、より甲賀というものを一つにまとめて考える時に大切ではないかと思えます。信楽は信楽、忍者は忍者というバラバラな考え方をすると、甲賀市全体の話はうまくいかないと思えますし、こういう会議を DMO に持っていくような形態をとった方が、今後のために良いのではないかと思えます。

委員長： 新型コロナウイルス感染症の影響があり、当初通りの計画と全く時代が変わってしまったため、もう 1 度改めて議論する必要もありますし、DMO が時期尚早といったことも含めて、時代がどうなっていくのかをこの場で議論していく必要があると思っています。

田嶋委員： これから DMO を設立していく方向なのか、設立できるような状態へ持って行って、また設立に関しては、後程考えていくのでしょうか。目的を聞くととても良い組織だと思います。観光協会と商工会、片方しか所属されてない事業者もいますし、マネジメントをする組織があれば、甲賀市全体で観光と経済につなげる活動に繋がっていくと思えます。代表的な組織があることはとても良いことだと思います。

委員長： 実は当時議論していた DMO と、今日本の中で動いているという DMO は変わってきています。一番初め、2015 年くらいに DMO を作る時は、全国 100 地域を認定しようという流れで動いていました。それが今 200 地域、もしくはもっと数が増え、現在は更新を認めないことが増えています。DMO を立ち上げるにあたり、条件がいくつかあり、デジタルマーケティングという、入込客数等いろいろなデータを解析分析できる専従の人を 1 人置くことが、まず一つの大きな条件でした。実際それがうまくいっていない地域が多いです。それだけのデータ分析ができる人を専従で雇うこと自体が、やはり小さなところだと難しいので、とりあえず人を置いて、という形でやっているところもあります。そのあたりが観光庁としてはうまくいってないと思っています。もう一つは財政の問題です。そこで、今度新しく DMO を立ち上げる場合には、財政の専門家を置くことになっています。DMO によっては、地方銀行の人がそこに行ってみて、実際に融資を受けながら、本当に会社として DMO を展開していくところもあります。また、地域を活性化する会社として、運営しているところもあります。気仙沼だと、地域だけで使うようなポイントカードを DMO が発行することによって、地域内だけで経済をまわし、コロナ禍の中、落ち込みが最小限、むしろ伸びた等の事例もあります。今後、検討していくのであれば、甲賀市に向いている形をどう模索していくのが大切だと思います。

清水委員： 私が先ほどの発言は、政府のいう意味の DMO を即導入するという意味ではなく、甲賀流の甲賀の観光促進事業の団体ができれば良いという意味で言いました。

委員長： 観光庁も明確な形を示しているわけではなく、それぞれの地域に応じてという形なので、いろいろな形があつて良いと思えます。

事務局： DMO の制度自体が変わってきているという部分を確認して、4 年前の形にとらわれることなく、新たに今、現行のこの市内にある組織力を結集して、国が進めている DMO になれるのかどうか、そこも含めていろいろな皆様のご意見を伺った中で、方向性を定めていくのが一番良いのではないかと考えております。4 年前にもご議論いただいたように、この審議会でもう一度、現状のデータや現状の資料に基づいてご議論をいただき、市にとって一番どのような方向が良いのかということもお示しいただきたいと考えております。

(3) 第 2 次甲賀市観光振興計画の見直しに伴う策定方針について

事務局： 第 2 次甲賀市観光振興計画の見直しに伴う策定方針について説明。

○質問・意義なしのため、提示した策定方針を進めることを決定

(4) 第 2 次甲賀市観光振興計画の見直しに伴う策定スケジュールについて

事務局： 第 2 次甲賀市観光振興計画の見直しに伴う策定スケジュールについて説明。

○質問・意義なしのため、提示したスケジュールを進めることを決定

次第 8：その他

・各団体でのコロナ禍での状況等について情報共有

次第 9：閉会

以上 12 時終了